

令和7年度 第2回 熊本市北区地域包括ケアシステム推進会議 議事録

日 時 令和8年2月13日(金) 14:00~15:30

場 所 植木文化センター多目的ホール

出席者 米満委員、平田委員、大塚委員、原口委員、井手委員、大久保委員、立花委員、宮田委員、濱松委員、戸渡委員、江上様(清田委員代理)、松川委員、阪本委員、渡邊委員、内田委員、境委員、津地委員、秋吉委員、中村委員

欠 席 藤本委員

1 北区長挨拶

2 議事

(1) 情報提供

熊本市地域包括ケアシステム推進会議の報告 . . . 資料1

地域資源を活かした短期集中予防サービスの実施と地域の通いの場へのつながり

ささえりあ北部 . . . 資料2

楠校区チームオレンジ「くすのきのわ」地域と企業との協働による取り組み

ささえりあ武蔵塚 . . . 資料3

北区集談会について

植木まちづくりセンター . . . 資料4

(2) 意見交換

○一般社団法人 鹿本医師会 平田委員

地域の通いの場へのつながりの報告では、支援者に負担がかからず公民館を解放できた、いろんな世代の方が自由に集えることがよかった。

仕事で北区に来ている方(企業・消防・警察・学校・学生)もいる。まちづくりには、いろんな方の意見を聞くことは大変よいと思う。この会議にもそういった方々をお呼びできるとよいと思う。

○米満副会長

地域の通いの場へのつながりの報告では、公民館をいきなり解放してくださいというのは難しいと思うので、介護事業をきっかけに、こういった事例ができたことはよかった。

災害があったときに公民館に避難する。普段から公民館を使っておくのは災害のためにもよいと思う。

こういった取り組みが公民館活用にもつながるとよいと思う。

短期集中支援事業の送迎管轄外というはひとつネック。

→ささえりあ北部 加世田氏

ほかの区でも同じような活動をされているところもある。地域活動で体力測定をすると2割くらいの方がフレイル。そういった方が介護事業所へは行きたくはないが、公民館に行くのはよい、と言われることがある。公民館長に相談すると、了解を得られることが多い。人数集めが必要、町外の方の受入れが可能だとよりよい。

事業所ごとに送迎の範囲を決められている。短期集中事業の事業所を増やそうとしているが、事業自体の利用者も多くないため、事業所も増えていかない。事業所には行きたくない人もいるので、公民館開催などいろいろなパターンがあるとよい。

○戸渡会長

人間は社会的なつながりが必要であり、そのための仕組みや工夫も必要。公民館を活用することで、地域のつながりができている。

○熊本市民生委員児童委員協議会 宮田委員

男性料理教室を実施し、10名参加された。当初社協が事業所を開始し、民協が引き継いでいる。コミセンだよりに掲載してもらい、参加者は増えてきている。今回はポークチャップ作りをして、参加者から教えてもらう場面もあり、楽しく過ごした。

校区としては、坂道が多い、バスもない。タクシーをだして、教室に参加者も募ろうかと話している。買い物も困る地域。一時乗合タクシーも通ったが、ニーズに合わなかった。ニーズに合った交通手段があるとよい。

いきいき百歳体操も実施している。以前は20名参加あったが、コロナ禍に活動ができない間に、施設に入られた方もおり、地域の集いの場が大事だと感じた。自転車で来ていた高齢男性が転び、一人で外出が難しくなった。地域の行事へ案内すると楽しそうに過ごされるが、送迎が一番課題になる。ちょっとしたボランティアで送迎などあるといいと思う。

○戸渡会長

集う手段が課題となっている。ボランティアではなく、集うための体制整備の検討が必要である。きっかけがあれば参加できる。

○公益社団法人 熊本県理学療法士協会 大久保委員

依頼があれば、地域の活動へ専門職を派遣している。

サービス提供者として、通所リハビリなど実施。施設サービス提供の担い手不足の課題に対し、「健康と幸せの会」に参加している方へ、社会貢献をしませんか、と声かけしたところ、思ったより多くの参加があった。社会貢献を担いたい方もたくさんいるとわかった。応募された方は独居の方。8名が活躍されている。地域の方が歩いて行ける施設として、こうした形の貢献もしていけると思う。

○戸渡会長

誰かの役になっていることがその方の健康づくりにもつながっている。担い手養成に専門職も取り組み、連携していけるとよい。

○熊本北合志警察署生活安全課 江上様

特殊詐欺などの防犯の講話を実施している。高齢者の方は電話での詐欺が増えている。独居で近所の方と関りがいない人もいて、おひとりで考えられて、詐欺被害にあわれる方もおられる。

防犯講話をコミセン等で開催し、情報共有をし、被害防止に努めている。コミュニティーのなかで説明すると、地域の防犯意識が高まると思う。防犯講話の依頼があれば、可能な限り対応する。

○戸渡会長

詐欺など身近な問題についてネットワークの中で気をつけようと共有していくとよい。

警察の力も借りながら、被害を避けていけたらと思う。

○公益社団法人 認知症の人と家族の会 熊本県支部 濱松委員

認知症の家族の会では、当事者、家族のつどいを月に1回開催している。ゲームやだご汁会、書初めなどを実施。年2回、リフレッシュ交流会も実施。去年の秋は、天草ハイヤ踊りを中学生に習った。先日の交流会では、当事者が9名参加され、グループワークを実施、当事者も活発に意見を言われ、こういった取組が大事と感じた。

○麻生田校区自治協議会長 秋吉会長

認知症声かけ訓練を毎年行事として開催している。今年は10月25日に開催。企業と連携し実施。今回はルーテル学院高校の生徒も参加し、声かけ役を体験してもらった。以前から小学生の子どもにも参加してもらっており、うまく相談相手になっている実績もある。以前は道路上で訓練をしていたが、現在は体育館の中で実施している。全体の状況が把握しやすい。

「レンタル孫」という、高齢者が日常にちょっとこまったな、ということ近くの子どもがサポートする事業をやっている地域があると聞いている。地域をあげてこの取り組みを進めていけたらと思っている。集談会の中でも、地域・企業・行政と一体となって活動を進めていけたらと思っている。

○戸渡会長

認知症の方への取り組みが、幅広い世代で支えていくことで、若い世代の社会性が身につくこともある。いろんな校区でも取り組みが広がればと思う。

○米満副会長

それぞれの分野で工夫のある活動をされている。

介護送迎を毎日100名程度実施し、移動の手伝いをしている。一方で買い物や病院へ行く足がないという課題がある。相当数、介護事業の車が走っているが、介護事業にしか使えない。介護事業所に行ったら、その日は病院に行けない。病院に行きたい場合、別日に家族が病院につれていかないといけない。システムを緩和することで、介護事業の車で病院に行けたら家族の負担は減る。根本を変えると、動きが変わるところもある。行政へも働きかけもしていきたい。地域の工夫も大切だが、根本的なところもこれから長い目で取り組んでいけたらと思う。